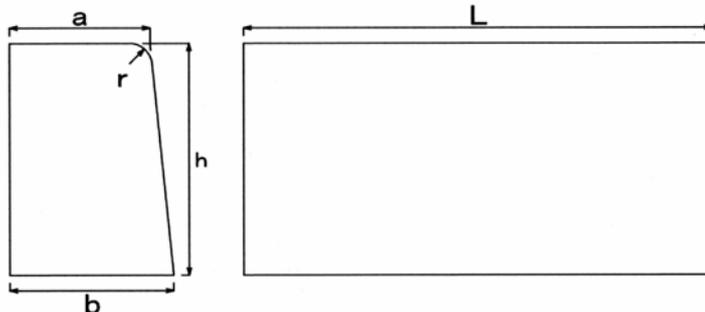
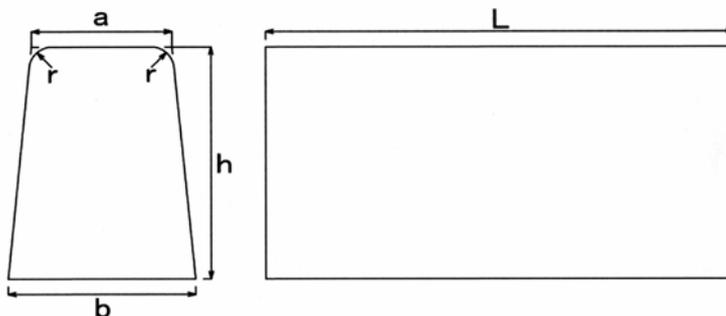


境界ブロック (JIS A 5371)

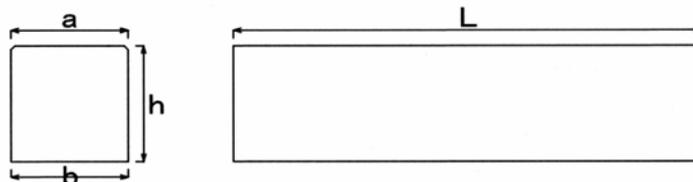
■片面歩車道境界ブロック



■両面歩車道境界ブロック



■地先境界ブロック (※各社の面取りは異なります。)



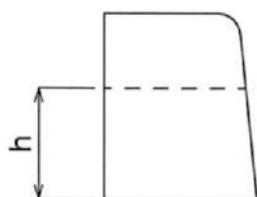
寸法及び寸法の許容差

単位:mm

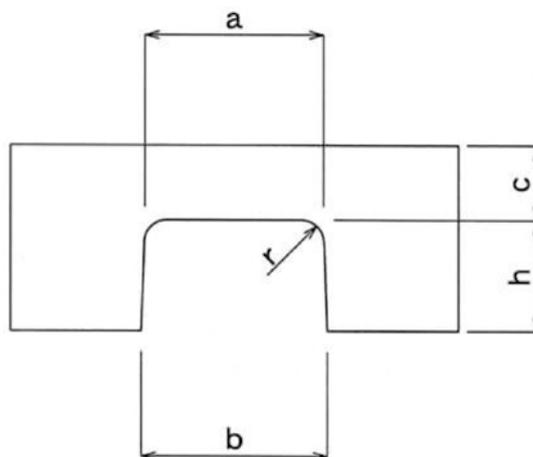
種類	略号		上面の幅		底面の幅		高さ		r	長さ	
	略号	呼び	a	許容差	b	許容差	h	許容差		t	許容差
片面歩車道 境界ブロック	片	A	150	± 2	170	± 3	200	± 3	20	600	± 3
		B	180		205		250				
		C			210		300				
両面歩車道 境界ブロック	両	A	150	± 2	190	± 3	200	± 3	20	600	± 3
		B	180		230		250				
		C			240		300				
地先 境界ブロック	地	A	120	± 2	120	± 2	120	± 3	-	600	± 3
		B	150		150						
		C									

片面・両面歩車道境界ブロック（水抜き寸法）

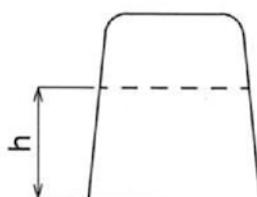
片面



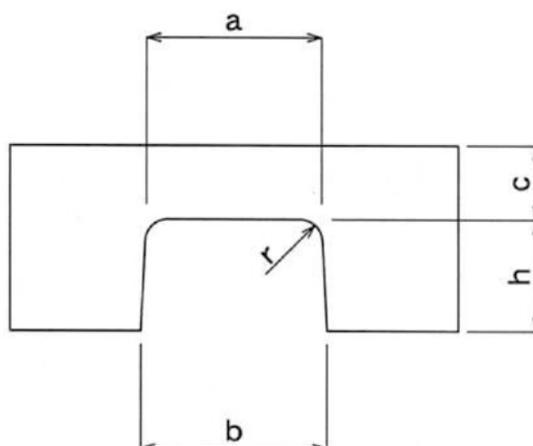
(Aタイプのみ補助筋入り)



両面



(Aタイプのみ補助筋入り)



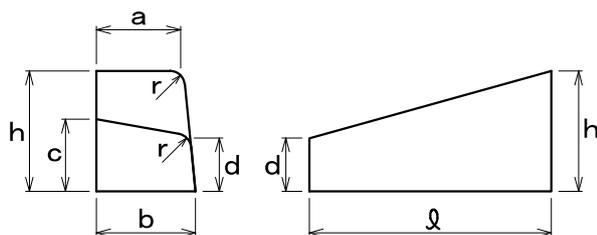
種類	略号	呼び	a	b	c	h	r
片面歩車道 境界ブロック	片	A	200	220	50	150	20
		B	250	270	100		30
		C	300	320	150		
両面歩車道 境界ブロック	両	A	200	220	50	150	20
		B	250	270	100		30
		C	300	320	150		

片面歩車道境界ブロック（左右・中間）



(傾斜型)

左右ブロック（傾斜型）



中間ブロック（傾斜型）

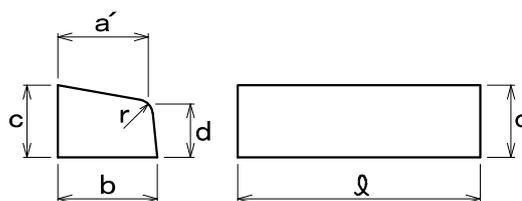


表1 左右

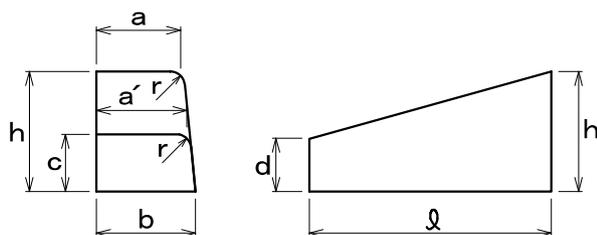
呼 び	寸法 (mm)						
	a	b	c	d	h	r	ℓ
ブロック A	150	170	100	70	200	20	600
ブロック B	180	205	100	70	250	30	600

表2 中間

呼 び	寸法 (mm)					
	a'	b	c	d	r	ℓ
ブロック A	163	170	100	70	20	600
ブロック B	198	205	100	70	30	600

(フラット型)

左右ブロック（フラット型）



中間ブロック（フラット型）

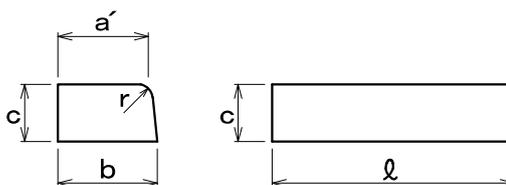


表3

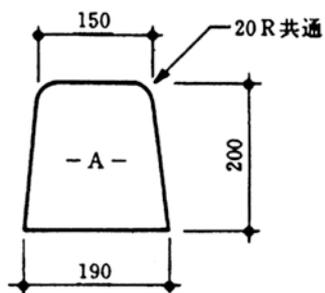
呼 び	寸法 (mm)						
	a	a'	b	c	h	r	ℓ
ブロック A	150	160	170	100	200	20	600
ブロック B	180	195	205	100	250	30	600

表4

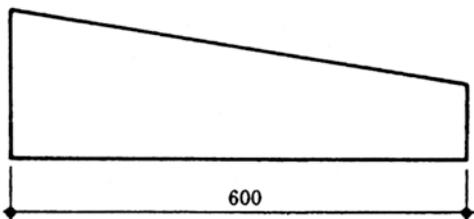
呼 び	寸法 (mm)				
	a'	b	c	r	ℓ
ブロック A	160	170	100	20	600
ブロック A (H=70)	163	170	70	20	600
ブロック B	195	205	100	30	600
ブロック B (H=70)	198	205	70	30	600

※新規格の高さ70mmを追加しました。
但し、横断歩道乗入用です。

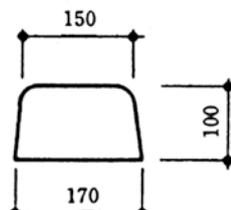
両面歩車道境界ブロック (左右・中間)



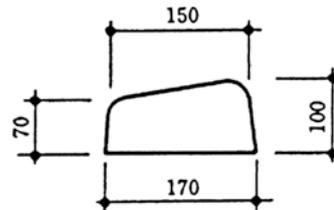
左右断面



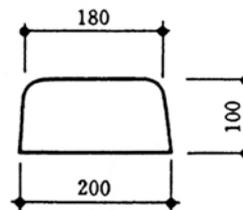
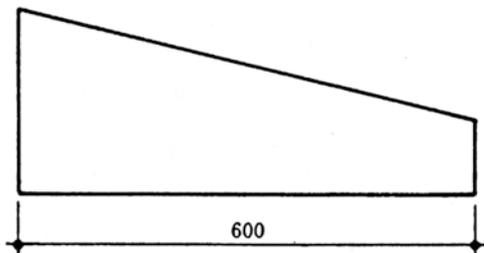
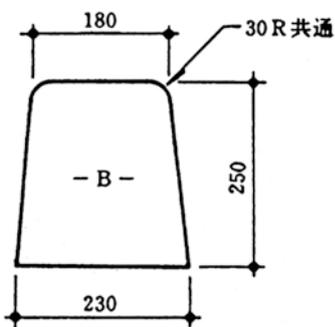
中間断面



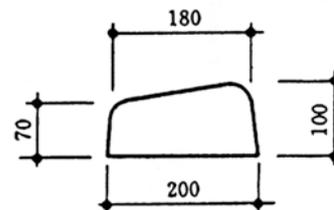
A フラット型



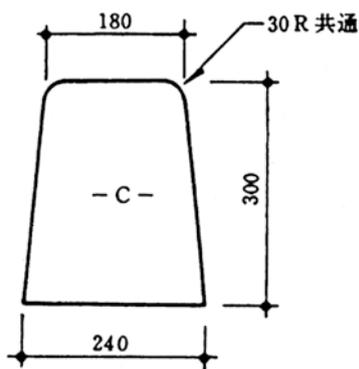
A 傾斜型



B フラット型



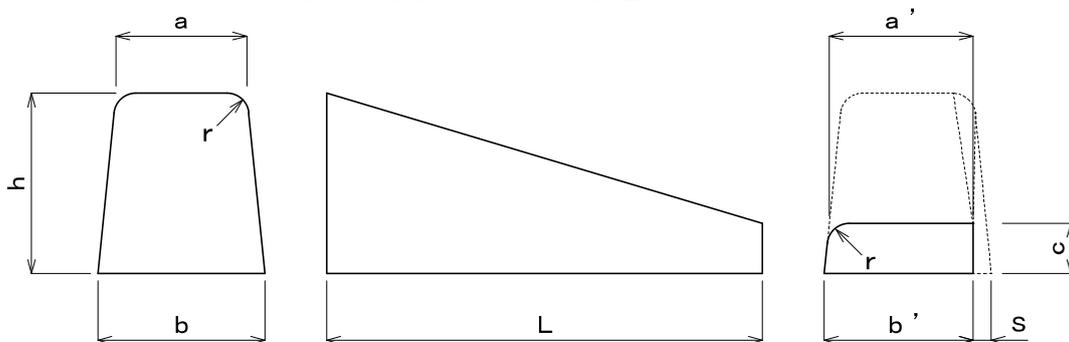
B 傾斜型



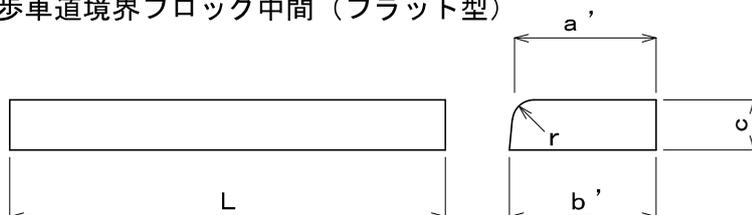
両片面歩車道境界ブロック左右切替（フラット型）

※ 本体を両面歩車道境界ブロックで施工し、乗り入れ(中間)を片面歩車道境界ブロックで施工する場合に両片面歩車道境界ブロック左右切替を使用。

両片面歩車道境界ブロック切替左右（フラット型）



片面歩車道境界ブロック中間（フラット型）

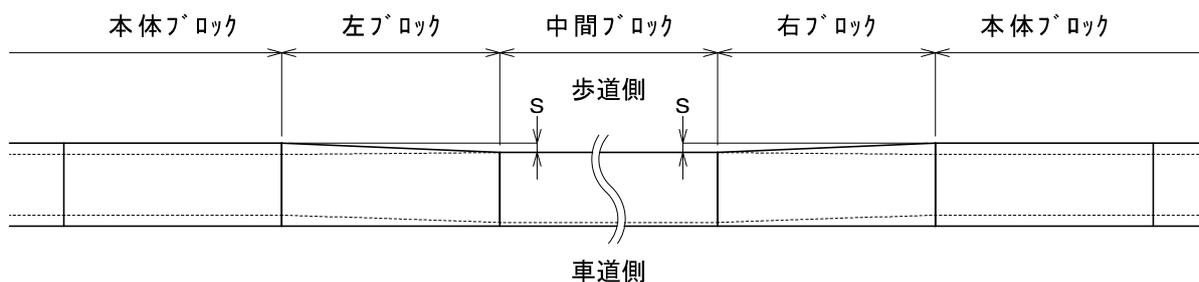


■寸法及び使用

呼び名		寸法 (mm)									参考重量 (kg)
		a	a'	b	b'	h	c	r	S	L	
両片面 左右	A	150	163	190	170	200	100	20	20	600	40
	A (H=70)	150	163	190	170	200	70	20	20	600	37
	B	180	198	230	205	250	100	30	25	600	48
	B (H=70)	180	198	230	205	250	70	30	25	600	44
片面 中間	A	—	160	—	170	—	100	20	—	600	27
	A (H=70)	—	163	—	170	—	70	20	—	600	18
	B	—	195	—	205	—	100	30	—	600	34
	B (H=70)	—	198	—	205	—	70	30	—	600	22

※ H=70 は歩行者横断部用

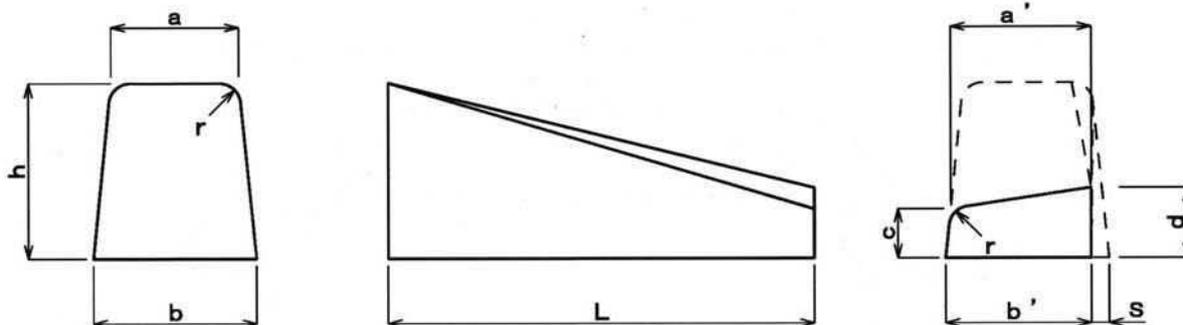
■施工平面図



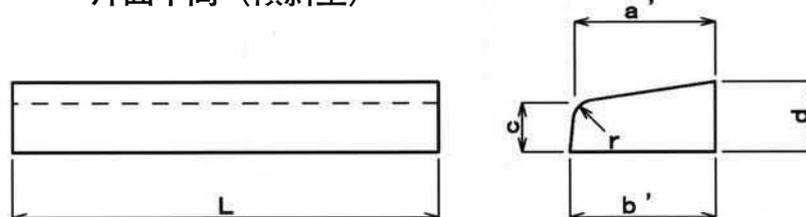
両片面歩車道境界左右（切替）ブロック（傾斜型）

* 両面歩車道境界ブロック本体で施工し乗入れ(中間)を片面歩車道ブロックで施工する場合に両片面切替左右を使用。

両片面切替左右（傾斜型）



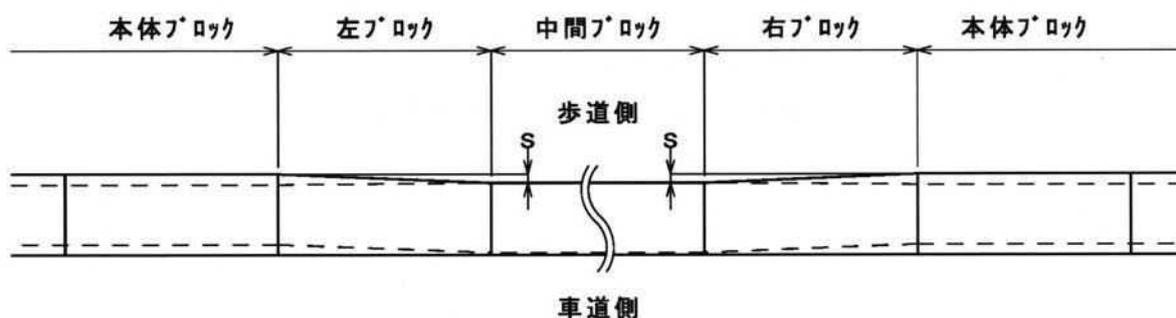
片面中間（傾斜型）



■寸法及び仕様

呼び名		寸法 (mm)										参考重量 (kg)
		a	a'	b	b'	h	c	d	r	S	L	
左右ブロック	A	150	163	190	170	200	70	100	20	20	600	38
	B	180	198	230	205	250	70	100	30	25	600	46
中間ブロック	A	-	163	-	170	-	70	100	20	-	600	20
	B	-	198	-	205	-	70	100	30	-	600	25

施工平面図

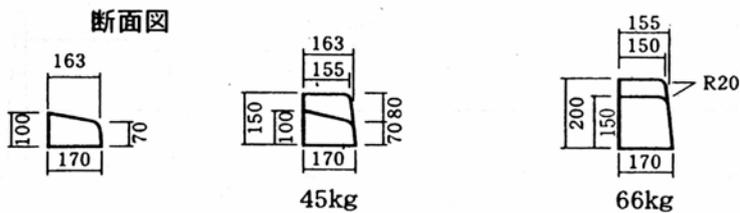
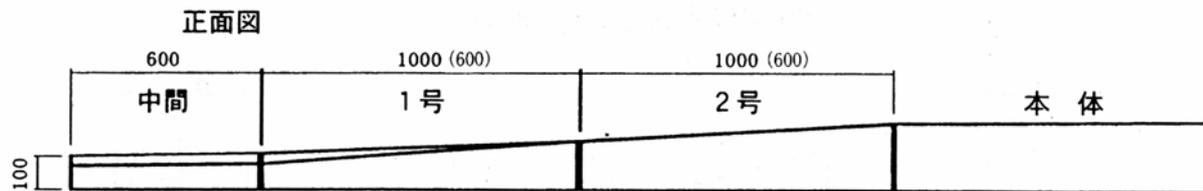


片面歩車道境界ブロック（乗り入れ左右・中間）

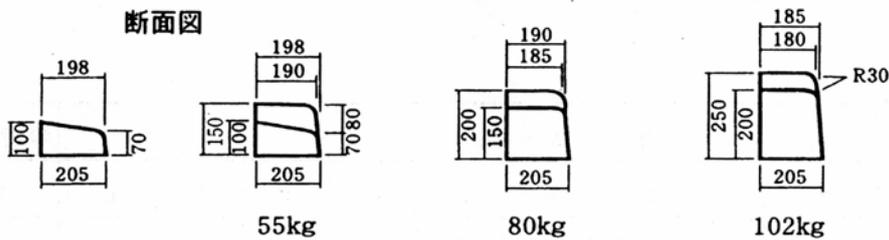
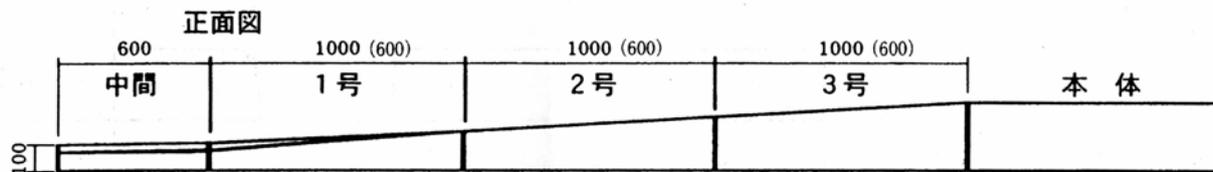
※1000=5%勾配（傾斜型のみ）

600=8%勾配（傾斜型のみ）

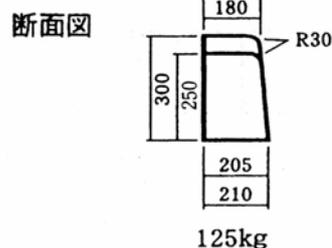
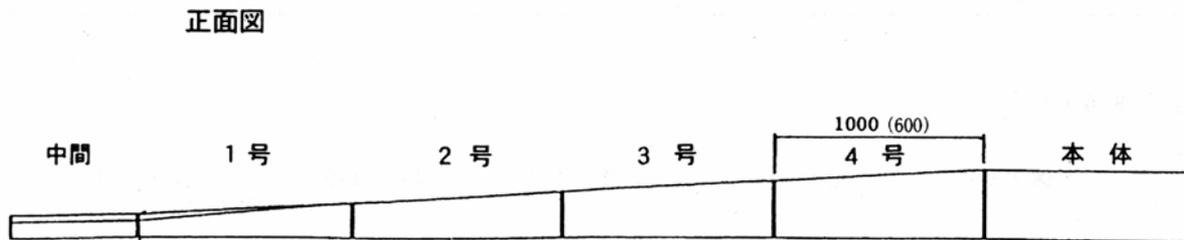
片歩 A（左右）



片歩 B（左右）



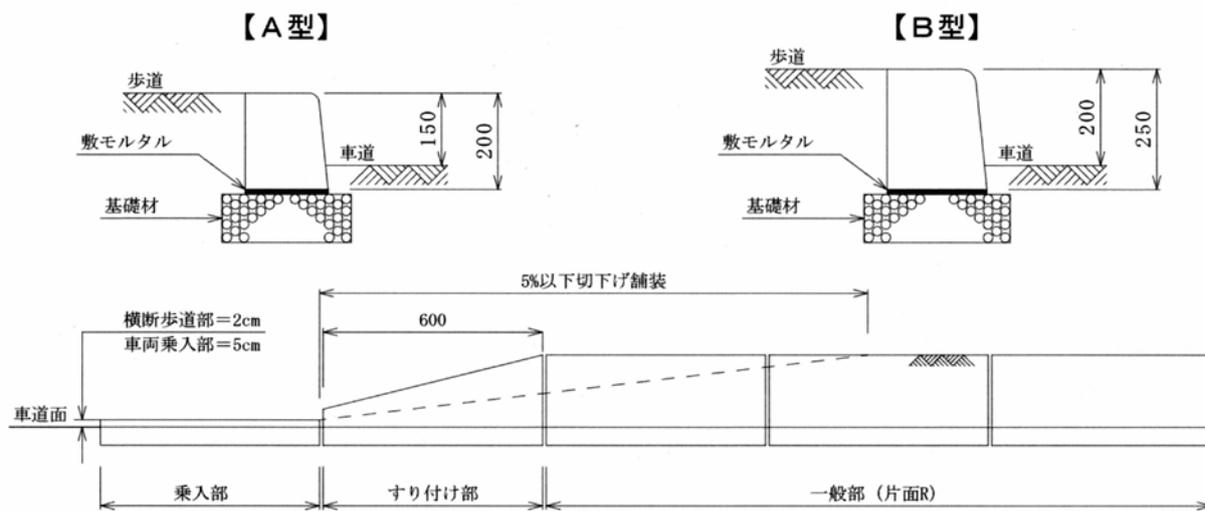
片歩 C（左右）



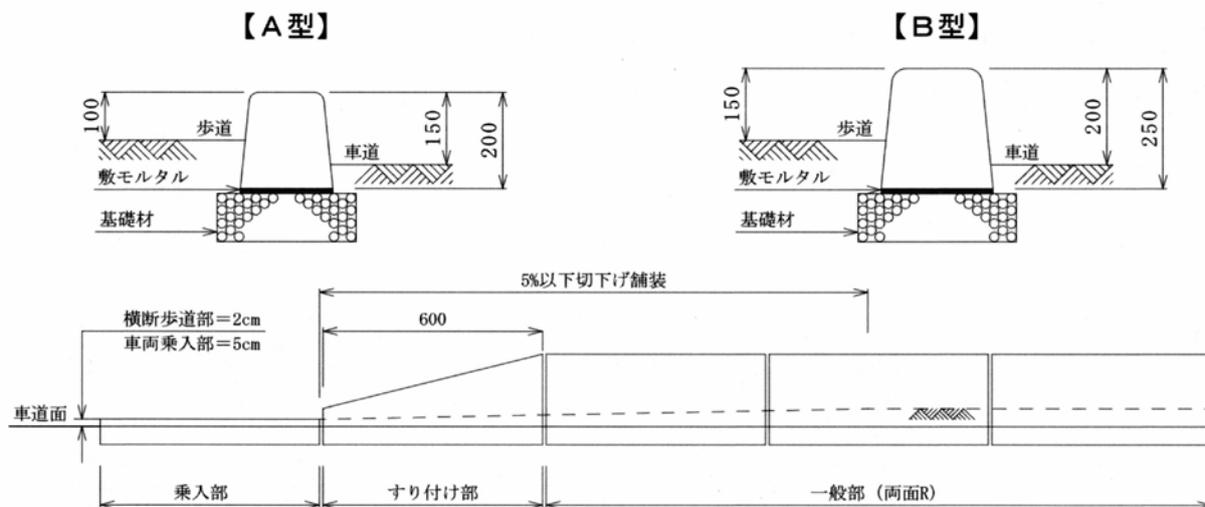
左右・1・2・3・号ブロックはBを兼用

歩車道境界ブロック（乗入部）標準施工図

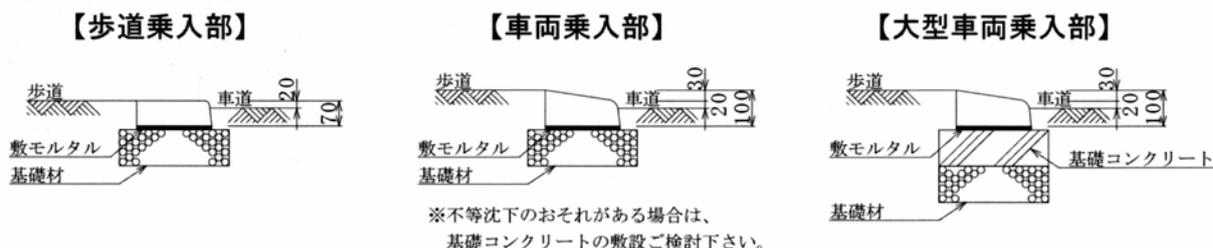
■マウンドアップ型の切り下げ方法



■セミフラット型の切り下げ方法

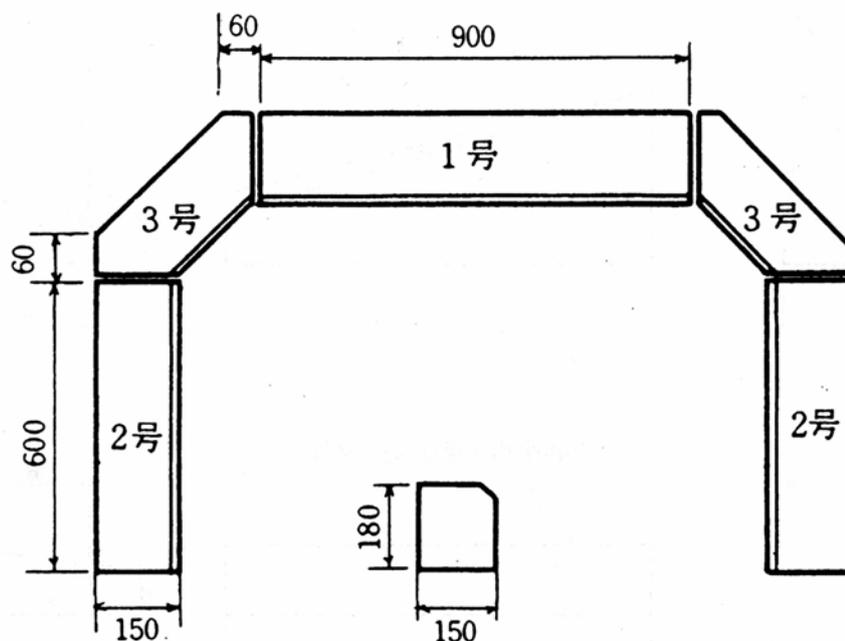


■中間ブロック



※不等沈下のおそれがある場合は、基礎コンクリートの敷設ご検討下さい。

植樹囲柵ブロック



(120型)

呼び	寸法 (mm)	参考重量 kg
1号	120 × 120 × 900	30
2号	120 × 120 × 600	21
3号	120 × 120	11

(150型)

呼び	寸法 (mm)	参考重量 kg
1号	150 × 180 × 900	57
2号	150 × 180 × 600	38
3号	150 × 180	21

※各社の面取りは異なる。

※120型の3号のコーナーは各社寸法は異なる。

歩道の一般的構造に関する基準の改正について

「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（いわゆる「交通バリアフリー法」）の施行に伴い、平成17年2月3日、国土交通省 都市・地域整備局長 道路局長より、各都道府県知事宛に「歩道の一般的構造に関する基準等について」通達がありました。

また、道路構造令にも「歩道と車道のすりつけ」について、新たな提案がされております。

これにより歩道の一般的構造に関する基準に大きな変化が起きました。その影響は我が沖縄県でも見られ、歩道の作り方・歩車道境界の考え方が変化しつつあります。

参考：国土交通省



『歩道の一般的構造に関する基準』（国土交通省通達より抜粋）

1. 歩道の一般的構造

2 歩道の構造の原則

(1) 歩道の形式等

① 歩道の形式

歩道の形式は、高齢者や視覚障がい者、車いす使用者等を含む全ての歩行者にとって安全で円滑な移動が可能となる構造とする事が原則であり、視覚障がい者の歩車道境界の識別、車いす使用者の円滑な通行等に十分配慮したものでなければならない。このため、歩車道を縁石によって分離する場合の歩道の形式は、歩道面を車道面より高く、かつ縁石天端高さより低くする構造（セミフラット形式）とする事を基本とする。

3 横断歩道等に接続する歩道の部分の構造

(1) 歩道の構造

① 水平区間

横断歩道等に接続する歩道の部分には水平区間を設けることとし、その値は1.5m程度とする。ただし、やむを得ない場合にはこの限りでない。

② 車道との段差

歩道と車道との段差は、視覚障がい者の安全な通行を考慮して2cmを標準とする。

(2) 横断歩道箇所における分離帯の構造

横断歩道箇所における分離帯は、車道と同一の高さとする。ただし、歩行者及び自転車の横断の安全を確保するために分離帯で滞留させる必要がある場合には、その段差は2cmを標準とする。

『歩道と車道のすりつけ』（道路構造令より抜粋）

横断歩道箇所および歩道の巻き込み部等における歩道と車道のすりつけの構造は、高齢者や障がい者の通行に配慮し、急な勾配が生じることを避けるとともに、適切な歩車道境界形状としなければならない。特に車いす使用者等が安全に信号待ち、回転等が出来るよう平坦部分を確保することが望ましい。

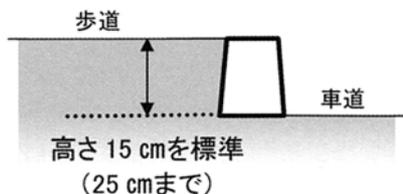
計画にあたっては「道路の移動円滑化整備ガイドライン」（一財）国土技術研究センター）を参考に。

「歩道の一般的構造に関する基準」改正のポイント

(国土交通省HPより)

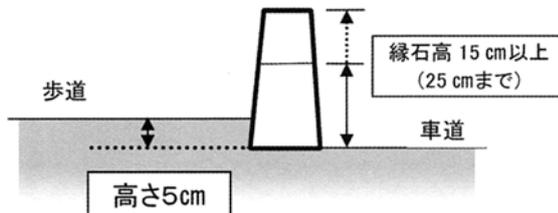
これまでの歩道

【マウントアップ形式】



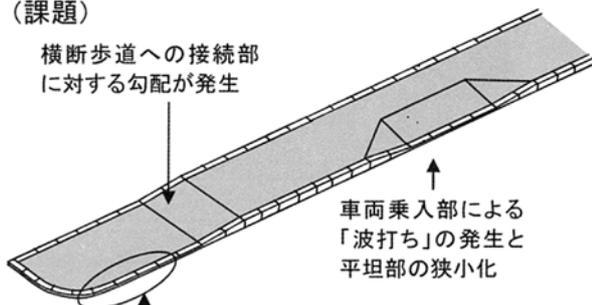
これから整備していく歩道

【セミフラット形式】

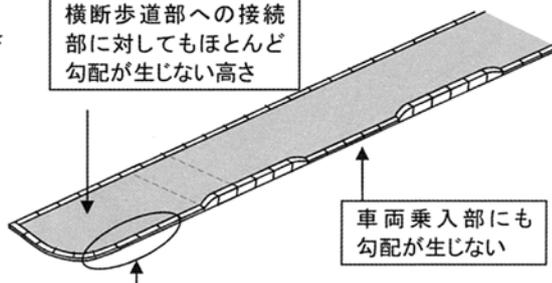


(課題)

横断歩道への接続部
に対する勾配が発生



横断歩道部への接続
部に対してもほとんど
勾配が生じない高さ



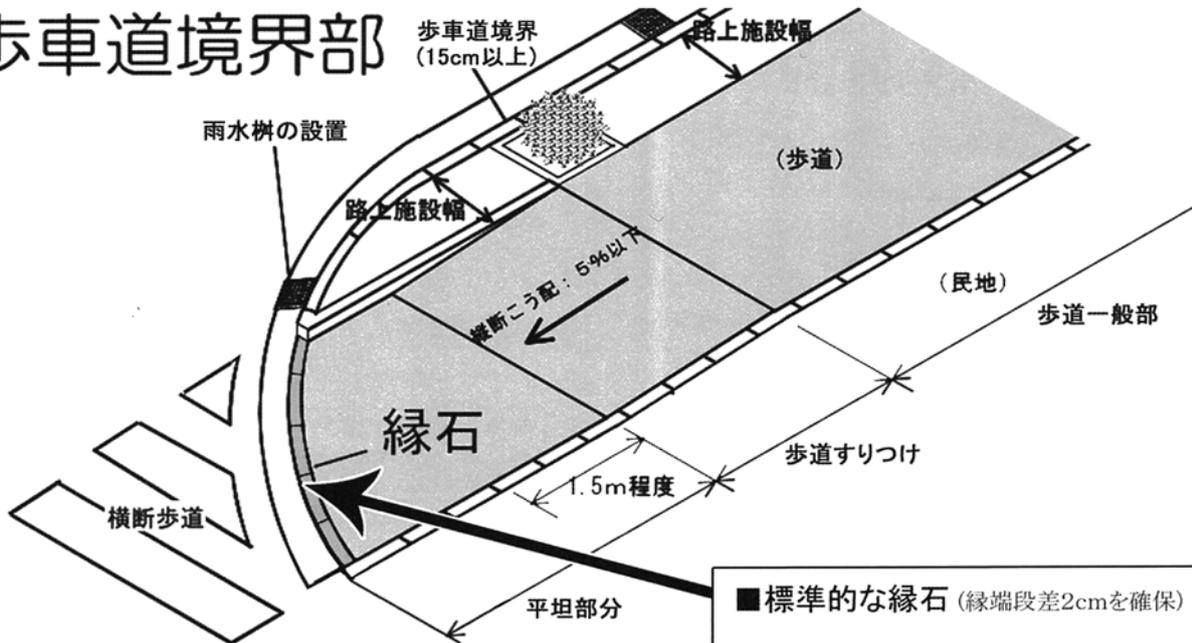
横断歩道との境界の高さは従来より「2cm」を標準

- ・ 車椅子使用者が少しでも昇り降りしやすいよう、なるべく低く
- ・ かつ、視覚障害者が杖や足によって車道との境界を認識できるような高さとして設定

※標準施工図については .P13 を参照下さい。

■歩車道境界の縁端段差について以下を規定

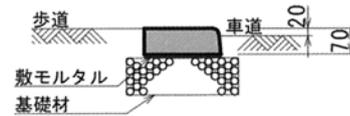
歩車道境界部



<問題点>

- ・段差を2cmとする事のみでは、視覚障がい者の識別性及び車いす使用者の通行性を高いレベルとする事ができない。
- ・安易にゼロの段差として、視覚障がい者の識別性を確保されていない事例がある。

■標準的な縁石 (縁端段差2cmを確保)



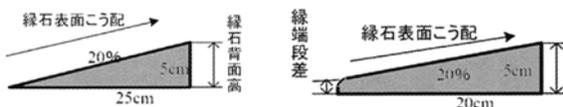
2cmの段差は…

- 【視覚障がい者】
白杖や足により歩車道境界を認知可能
- 【車いす使用者】
車いすで段差を登ることが可能

解決策

2cm未満の段差について、視覚障がい者の識別性を確保する事等の検討を行い、条件が満たされれば、整備を可能とする。

【①対象となる縁石形状の例】

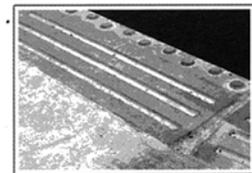


- ・国土交通省の実験の結果、車いす使用者及び視覚障がい者ともに評価の高かったものの例。

【②識別性確保の工夫事例】



- ・視覚障がい者誘導用ブロックを設置した例



- ・縁石表面に突起を付けた例

①と②の機能を持った新型縁石

ゆいバーサル縁石

ゆいの国「沖縄」型、バリアフリー対応、ユニバーサル縁石ブロック

■車椅子

従来使用されている歩車道境界ブロックは、最小でも2cmの高低差があり、これは車いすの方が横断歩道を渡る際、大変な障害となっていました。

この縁石は車道と歩道のゼロすりつけ(バリアフリー)をし、車いすの方でも横断歩道を渡りやすい、縁石です。

■視覚障がい者対応

従来の製品には無かった直径30mmの突起を、縁石の歩道側に付けました。

これは歩道にある注意喚起用の点字ブロックと同じ規格で、視覚障がいの方が使用される白杖や、靴底の感覚で、この先は車道である警告と同じ事が伝えられます。

■歩行者対応

従来の歩車道境界ブロックに滑り止め用の溝を付けました。ツルツルだった従来の縁石は、雨の日は滑りやすいという問題がありました。

等間隔に作られた溝は雨天時でも確かなグリップを発生させ、通学路などにおける、歩行者の危険性を減らします。

■自転車対応

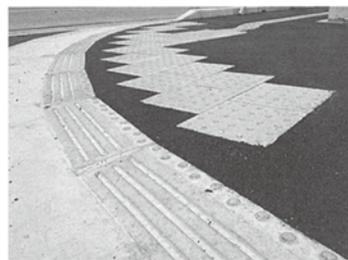
新たに施行された自転車環境ガイドライン及び、道路交通法が変更となり、自転車は車道を走る事になりました。

自転車は目的地に入るとき、車道から歩道を経由しなければなりません。その際、従来品は段差がある事で、歩道へ深い角度を付けて入らないと転倒する危険性がありました。

この段差を取り除いた新型縁石は、歩道への乗り入れがスムーズに行えます。

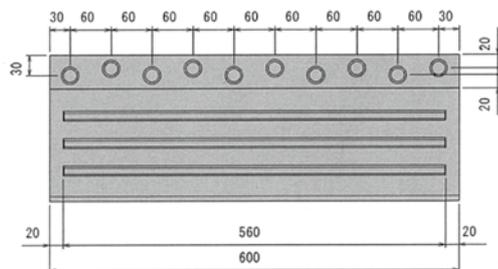


北谷町：宮城1号線

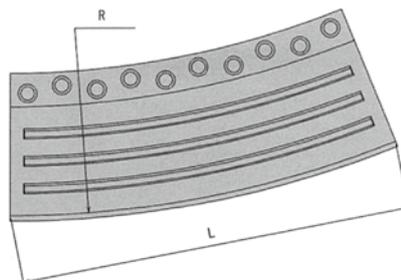
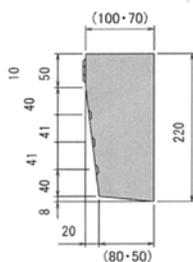


製品図

直部



コーナー部



R (m)	L (mm)	1/4円使用本数
1.5	579	4
2.5	645	6
3.5	600	9